松山・道後と台北・北投「温泉友好交流」を締結

11月4日、台北市内で調印式行う

観光客誘致、相互送客促進へ

道後温泉旅館協同組合（愛媛県松山市）と、北投温泉を擁する台湾の台北市温泉発展協会が11月4日、「温泉友好交流」を締結した。松山市と台北市は同じ「松山空港」を持つ縁で交流を深めてきたが、温泉地同士も交流して相互送客に努め、懸案となっている両都市を結ぶ定期チャーター便の就航を実現したい考えだ。道後では今回の台湾を含め、中国、韓国など東アジアを中心に、インバウンドの受け入れを積極的に行っていく。

調印式は北投温泉で開かれた「2011年台北市温泉まつり」のオープニングセレモニーの中で行われた。

式には日本側から愛媛県の中村時広知事、松山市の野志克仁市長、道後温泉旅館協同組合の大木正治理事長ら、台湾側から台北市の郝龍斌市長、台北政府観光傳播局の趙心屏局長、台北市温泉発展協会の周水美理事長らが出席。日本側から総勢約300人が訪れた。

道後の大木理事長、台北の周理事長は、道後、北投の両温泉が今後、友好交流を進めるとする協定文書に調印。中村知事、野志市長ら日台双方の首長らが後見人として立ち会った。

イベントでは松山市の野志市長があいさつ。東日本大震災の被災者への台湾側からの義援金拠出に謝意を述べるとともに、台湾と愛媛、松山の友好関係が今後ますます深まることを切望。道後温泉への多くの来訪を呼びかけた。

温泉まつりには、道後温泉の秋まつりで使われるみこし2体も参加。みこし同士が勢いよくぶつかり合う「鉢合わせ」を披露し、会場を訪れた約5万人の台北市民をフィーバーさせた。

まつりではこのほか、松山の観光PR展や、アジア太平洋の温泉観光に関するフォーラムも実施。日本健康開発財団の研究員らが、日本における温泉利用、入浴の歴史と現状などを報告した。

日本からの一行は9日まで滞在。現地メディアへの記者会見や、台湾交通部民用航空局への表敬訪問、台北市内の松山慈祐宮への参拝と震災復興祈願など、精力的に活動した。

勇壮なみこしの鉢合わせ

みこしは温泉まつりの一環で披露された

調印する大木理事長（右から２番目）と周理事長

双方が記念品を交換

交流をアピールするのぼり

松山～台北間 定期便の就航めざす

愛媛県知事、松山市長が尽力

調印式に先立ち10月5～7日は台北市の一行が松山市を訪問。旅館組合の大木理事長らと調印の内容を確認したほか、松山市の野志市長を表敬訪問した。

野志市長は「52万人市民を代表し、皆さまを心から歓迎する。松山市は同じ『松山空港』を持つ縁で台北市と都市間交流を進めてきた。両都市は〝夢のチャーター便〟ができればわずか2時間で結ばれる。（実現へ）皆さまのご協力をお願いしたい」とあいさつ。

訪問団を代表して、台北市温泉発展協会の周理事長は「（道後の）素晴らしいホテルに泊まり、素晴らしいお湯を体験した。台湾の人に、松山のよさを伝えたいと思う。台北も素晴らしい温泉を持っている。両温泉の交流を深められるよう、努力したい」と述べた。

松山市と松山観光コンベンション協会主催の歓迎レセプションでは、前の松山市長で、愛媛県知事の中村氏があいさつ。「私が市長になった時の夢のひとつが台北との定期チャーター便の運航。私の市長時代はかなわなかったが、流れは現市長に受け継がれており、いつか実現すると信じている」と述べた。

中村知事のあいさつを受けて周理事長は「私が台北市長なら、明日すぐに（チャーター便を）出航させる」と述べ、出席者の笑いを誘った。

野志市長を囲んでの記念撮影（松山市役所で）

周理事長（右）に記念品を贈る野志市長

レセプションであいさつする中村知事

◆道後温泉

3千年の歴史を持つ日本最古の温泉。足に傷を負い、苦しんでいた白鷺が岩間から噴出する温泉を見つけ、毎日飛んできて足を浸していたところ、傷が完全に癒えて元気に飛び立った。これを見ていた人が温泉に入浴したところ爽快で疲労回復し、病人も全快したことから盛んに利用されるようになったという。

1894年に建築された道後温泉本館が、近代的なホテルや商店街の中にあって、風格のある姿を誇っている。

◆北投温泉

台北市北部の北投区にある温泉。戦前の日本統治時代、日本人の手によって開発された。川沿いにホテルや共同浴場が立ち並び、日本の温泉地のような風情をかもし出している。2010年には加賀屋（石川県和倉温泉）が同地に進出した。

微量のラジウムを放出する「北投石」が、温泉の優れた効能を生み出している。

台北市温泉発展協会　祝 温泉交流　道後温泉旅館協同組合